

第 19 回 IPPNW 世界大会 in スイス 感想文

京都民医連事務局 前田 和也

私は、初めて IPPNW に参加させていただいた。医師でもない私が参加させていただき、力量不足で何の役にも立たなかったが、それでも日本代表団として参加させていただけたことで、得るものはたくさんあった。ここでは、大きく 3 点だけ挙げてみる。

まず、何よりも驚いたのは世界中から医師を中心にした人が集まり、学習や交流をされていたのだが、すごいパワーだと感じた。人の命を救うことが使命である医師が、人々の健康を脅かす核や戦争について、その影響について調査し、告発しているという姿には並々ならぬ覚悟があるように感じた。

もう一つは、大会の雰囲気や世界の方々の取り組みを知ったことなどを通して、世界にはまだまだ知らないことがたくさんあるということを感じさせられた。世界中の様々な経験から学べることはたくさんあると思う。そうした世界で起こっていることや、そうした問題に対してどのような取り組みをしているのかなどはもっと学び、私たちの運動をもっと発展させる必要があるのではないかと感じた。今回、初めて日本代表団としてワークショップを持つという機会に遭遇出来たのは、日本から問題を発信する瞬間に立ちあうことができ、勉強になった。

同時に、ヒロシマ・ナガサキで起こったことを伝え続けるのは、実戦下で核兵器が使われた唯一の国としてやらなければいけないことだと強く実感した。その理由は、世界各地で深刻な問題が起こっているが、初めて核兵器が使われたヒロシマ・ナガサキを人々の中から忘れさせてはいけないと感じたからだ。

語学力と性格の問題であまり活発な交流は出来なかったが、それでも面白い経験があった。その一つが、平和の象徴として日本では当たり前になっている折り鶴が世界の人々に広く受け入れられたのは、それを通して交流が出来るだけでなく、私たち日本人の気持ちを伝える上でも有効なのだと知った。

“Think globally, Act locally”という言葉があるが、これは、世界からたくさんのことを学び、世界視野でものごとを考えながら、今私たちがいる「ここ」で出来ることをしっかりとやり、それを世界に発信し、さらに学び私たちの取り組みを発展させることなのだと身を持って知ることが出来たと思う。

今回、私のような若輩者を受け入れてくださった代表団の皆さんには本当に感謝しています。今回の経験を通して学んだことを、まずは地元の京都でしっかりと生かしていきたいと思います。